

二日夜初夢

る人ありかふ人ありをかしき事也

〔水戸歲時記〕正月二日○中此夜寶舟ノ畫ヲ枕ニ敷テ其夜ノ夢ヲ見テ其事ノ吉凶ヲ占スル事ア

リ

〔貞丈雜記祝儀〕今時正月二日の夜寶船の繪を枕の下に敷事あり昔は節分の夜にこれを用ひし也正月二日にはあらず

〔嬉遊笑覽八思謙〕初夢○中今江戸にて元日をおきて二日の夜とするものは其故をえらず晦日は

民間には事繁く大かたは寐るものなしこの故に元日の夜はいたくこうじていぬめればさる

まじなひ事などは、倉略にえたるよりの事にや○中浮生が滑稽太平記に、試毫評判の條、回祿已

後、倉相なる家居に越年をして、せめての祝儀にや、去年たちて家居もあらた丸太哉ト發たから

の舟も浮ぶ泉水中略○又年越の夜も敷ことあり、故に冬の季ともいひたり、然るに二ツあるも

のは、前するを季に用ゆ、新年をとむためなれば、此理近かるべしといへるもあり、されども玄

札老巧たり、既に脇にする時は、如何にも春たるべしといへるも有けり、回祿已後は萬これをみ

れば江戸にはそのかみより、元日か二日を用ひしなり、兩日定まらざりしにや、船の繪内裏より

公卿に賜るは二日なりとぞか、る故なるべし

〔守貞漫稿 二十六〕正月二日、今夜寶船ノ繪ヲ枕下ニシキテ寢ル也、昔ハ節分ノ夜行之、伊勢伊勢

其他小引、下ハ引合、末女ハ杉原、皆紙名也今世禁裏ニ用ヒ玉フハ、舟ニ米俵ヲ積ムノ圖也、印板民間ニ賣ル者ハ、七福

神或ハ寶盡等ヲ畫ク、寶盡、丁子、打出、毬、分銅、カク京坂ハ近世廢衰ス、江戸ハ今モ專ラ元日二日ノ

宵ニ、小民賣之巡ル、寶船ノ印紙ニ、道中雙六ノ印紙ヲ兼賣ル、其詞曰、道中雙六、オタカラ、今夜

ノ夢ヲ初夢ト云、故ニ吉夢ヲ見ント寶船ヲシクコト也

〔倭訓栞中編 十三〕たからぶね 寶貨を積たる船をぶがきて歌あり、回文也、全浙兵制にも載て、と

寶船